

仙台平野南部大震災復興スタジオ —スタジオ報告！— GCOE Design Studio in Sennan Area -Studio Report!



text_ishii

東日本大震災を受け五月より宮城県の岩沼、亶理、名取、山元地域を対象とした「仙台平野南部大震災復興スタジオ」の現地調査とスタジオの中間発表の様子をお届けします！

The interim announcement of the Sennan area great earthquake revival studio that had started since May was done!

現地調査

M1 浅野 純子



▲樹木の年輪を数える石川先生



▲瓦礫撤去を終えた被災地



▲仮設住宅を見学するスタジオメンバー



▲地盤沈下の様子

GCOE 震災復興スタジオでは、環境デザイン研究室の石川幹子先生のご指導のもと、都市工学専攻と建築学専攻の生徒が宮城県仙南地域と呼ばれる名取市、岩沼市、亶理町、山元町における東日本大震災復興計画に取り組んでいます。5月15日(日)には、岩沼市のご協力のもと、現地調査にも赴きました。仙南地域は仙台や東京などの大都市が近いため、私達が現地に入った時には既に瓦礫の撤去作業がかなり進んだ状況で、家があったはずの場所には家も瓦礫もなく、ただ真っ白の砂浜が広がっていました。私自身、今回の震災後に初めて行った被災地だったため、津波による壊滅的被害を目の当たりにした時には大変なショックを受けてしまいました。それとともに、この大震災の復興は私達ひとりひとりが真摯に向き合わなければならないことだと痛感しました。

現在は綿密なサイトアナリシスを終え、それぞれの生徒が設計課題を自分で設定し、毎週木曜日に行われるエスキスをもとに、最終講評に向け準備を進めています。

中間発表会

text_ishii

6月14日(火)にGCOE国際設計演習の中間発表会がありました。本研究室からはロンドンスタジオと復興スタジオに参加している5名のM1が発表を行いました。会場には建築学科の先生方や生徒を始め多くの人で賑わっており、学ぶことへの情熱が伝わってくる場でありました。

ロンドンスタジオの発表は現地で撮影した映像を使用し、現地学生とのWSや視察についての事を交えたユニークなものとなっていました。復興スタジオでは宮城県仙台市南部の4地域ごとに行った分析を基に、農村集落や漁港の再生など各自の提案する復興デザインについて発表しました。会場にいらした方の中には実際、今回の東北地方大地震の復興計画に携わっておられる方もいたため、とても熱い議論が交わされました。今回の中間発表では、様々なスタジオの発表見聞きすることにより、短い時間の中での効果的なプレゼンテーションのしかたなどを学べた良い機会であったと思います。



▲ロンドンスタジオの発表の様子



▲プレゼンテーションを学ぶ良い機会



▲講評に熱心に耳を傾ける生徒たち



▲復興スタジオの発表の様子

PJ 本格始動！

The Projects Began to Act in Full Scale!

お天気の影響により計画通りいかない梅雨の時期。そんな中でも太陽を味方につけて、続々とPJの現地調査は行われました。今回は初めてだらけのM1がメインのPJ報告特集です！

公共空間 KOUKYOUKU-KAN-project プロジェクト

特任研究員 Christian Dimmer



▲使われにくい公開空地



▲通り抜けもばっちり調査

In Tokyo at more than seven hundred high-rise buildings publicly usable spaces have been created by private developers over the last four decades. Alone the Comprehensive Design System (総合設計制度) has produced new public spaces in Tokyo that equal the size of more than eleven times Hibiya Park. Despite their large number and their significance a quality monitoring does not exist. How many of those spaces are usable, which activities does their design encourage, or how are they designed and maintained? The POPS (privately owned public space = 公開空地) project seeks to address these questions by creating a detailed inventory.

足助 ASUKE-project プロジェクト

日本女子大学 M1 伊東 加恵



▲不思議な歯医者さん



▲総合衣料ジャスト

足助町はお話で伺っていた通りに、ディーブで不思議な秘境でございました。町並みは美しく、山間の地形に沿うようにして道、それに面して様々な年代の町家が変わる事もなく建ち並んでいます。川の流れる音に、土地の生命力と力強さを感じました。そして、人々の個人的な事といったら！お店は昔のまま、しかし、ディスプレイは自由気まま。時計と一緒に、自作のオブジェを並べていたり。不思議な歯医者に、缶で作った素敵なランタンがぶらさがる総合衣料ジャスト。ここに住む人々は創造力にあふれていると同時に、古く良い物を継承する力も兼ね備えていらっしゃる。この2つを両立することは容易ではありません。

浅草 ASAKUSA-project プロジェクト

text_omori



▲子供たちで賑わう光月工房



▲奥浅草のユルキャラ「おくあさちゃん」

6月18(土), 19(日)の奥浅草のあじさい祭にあわせて、材木店が集まる旧光月町(台東区入谷3丁目付近)で木工教室「光月工房」が行われました。同町は食品サンプルで有名な合羽橋とも近く、かつては運河があり、それを利用した材木の流通で栄えました。現在は材木店も少なくなりましたが、旧光月町の歴史や特徴を伝え、地域に根付いた材木店街を作るために、小学生向けの木工教室を昨年から実施することになり、都市デザイン研究室も協力しています。両日とも多くの子供たちが集まり、思い思いに木工に取り組んでいました。デザイン研究室の学生も多く集まり、研究室用のベンチを製作しました。材木を通して多くの人間が繋がっていく貴重な体験でした。

清水 SHIMIZU-project プロジェクト

text_matsumoto



▲自転車での倉庫群見学



▲昼食はみんなで海鮮丼に舌鼓

6月12日(日)、今年度から始動した清水PJ初の現地調査が行われ、黒瀬助教をはじめプロジェクトメンバー5名が参加しました。現地では、市役所の方たちにご案内頂き、自転車清水港周辺の工場地帯や倉庫群地帯、蔵や歴史的建造物が点在する巴川沿いの市街地などを訪れ、今まで知らなかった清水のまちの魅力に触れることが出来ました。また、1日の終わりに開かれたミーティングでは、使われていない倉庫の活用方法や港湾地区の賑わいの創出について早速話し合い、これから取り組んでいく課題を整理・共有しました。短い時間ではありましたが、様々な側面を持つ清水の可能性を垣間見ることのできた1日だったと思います。

Information

6月・7月の予定

6月 28日	2011年度第5回研究会議@ 205
7月 2日~4日	五箇山PJ現地調査
7月 5日~6日	足助PJ現地調査
7月 7日	2011年度第6回研究会議@ 802

✧ 編集後記

石井 かおる

わが家のペットは二匹のイモリ。記憶力の悪い飼い主により、名付けた翌日には名無しとなっていました。そんな二匹に脱皮の季節がやってきました。イモリにとって脱皮はなかなかの一件。でも、困難の後は成長が待っているんですよね。脱皮して日々成長するわが子のように、私も毎日色んなことを学びとって成長していけたらいいなと思います。よろしくお願ひします！因みに、脱皮後の手足の皮は、まるで透明なゴム手袋のようになってとってもcuteなんです！